

金住社長 住鉄期次 日藤進

技術力の向上重視

本県 経済 「海外需要取り込みを」

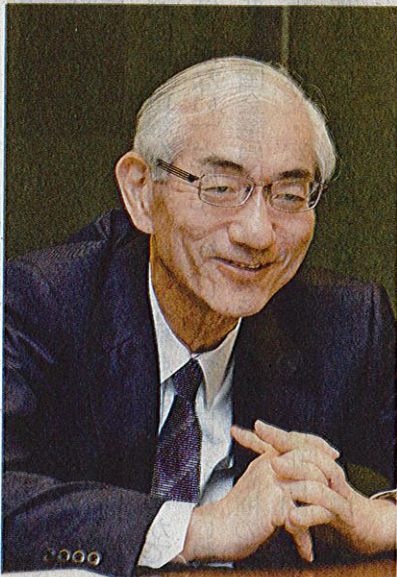
国内の鉄鋼メーカー最大手・新日鉄住金の次期社長に就任する進藤孝生副社長(64)は秋田市出身が29日、東京・丸の内の新日鉄住金本社で秋田魁新報社のインタビューに応じた。技術力向上や地域とのつながりを大切にしている経営方針を強調。本県経済の活性化については、海外市場の成長を積極的に取り込むなどして、新たな雇用創出を図る必要性があると述べた。

■関連記事4面
進藤氏は、新日鉄住金を含む国内の製造業メーカーが国内

進藤 孝生氏(しんどう・こうせい) 秋田高一橋大卒。73年新日本製鉄(現新日鉄住金)。新日鉄副社長などを経て、12年10月から新日鉄住金の副社長。14年4月に社長就任予定。ラグビー選手としても活躍し、秋田高時代はフォワードで全国大会に2度出場。

際競争の中で、生き残っていくには技術力向上が不可欠とした。新日鉄住金としては国内生産量を維持しながら、市場ニーズにあった製品を供給していく」と語った。

国内の生産体制については、岩手県金石市など各製鉄所と地域社会とのつながりの深さを重視。「これまで地域社会や従業員と苦境を乗り越えてきた。よほど事業環境に



日本の製造業は技術力向上を目指すべきと語る進藤氏

変化がない限り、生産体制の再編は考えていない」と述べた。

古里の県内企業などの方向性については「エネルギーコストの増大や為替など、製造業の抱える課題は基本的に同じ。技術開発を進め、海外から新たな需要を取り込み、雇用の創出を図る必要がある」と指摘。海外市場のターゲットとしては消費が旺盛なアジアのほか、経済や学術などの分野で対岸交流を進めてきた

ロシアを挙げ、国がコメ政策た農業の方向性IT(情報技術)産効率を向上させ、企業や、企業を参入を促進する意識を示した。

進藤氏は大企業として、経歴塾大の小泉信8・1966年可能を可能に古里の若者に努力すること。勉強でも、努力力、知力、チャンスが取れる」とメッセージ。この言葉を念め、「技術開発はね。努力する。可能だったことになる」と述べた。